

## 総務文教委員会行政視察報告書

令和 元年 6月 5日

笠岡市議会 議長 殿

(出張者) 委員長 藤井 義明 副委員長 大本 邦光  
議員 天野喜一郎 議員 井木 守  
議員 大本 益之 議員 栗尾 順三  
議員 三谷 渡 議員 森岡 聰子

下記のとおり行政視察を実施したのでその結果を報告します。

### 記

#### 【1】恩納村議会

住 所	沖縄県国頭郡恩納村字恩納2451番地
電 話	098-966-1199
視察案件	幼小中の連携教育について (英語教育) (ICT) 中学校規模適正推進事業について 「うんな中学校」開校にかかる中学校統合推進室の取り組みについて
期 日	令和元年5月20日 (月) 13時15分 ~ 14時50分
応 対 者	當山欽也 教育長, 石川 司 学校教育課長, 稲福盛也 主任指導主事, 仲宗根政人 指導主事, 名城政太 学校教育係長, 喜久山隆 中学校統合推進室長, 宜志富清弘 指導主事 (学校長), 饒波武周 指導主事, 富田康介 指導主事
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	恩納村議会 会議室
概 要	○恩納村教育委員会 當山教育長 あいさつ

○笠岡市議会 藤井委員長 あいさつ

○恩納村教育委員会 石川学校教育課長 教育委員会概要 説明

地理的に細長い町であるため、横に地区が並ぶ形となっている。喜瀬武原を除き、14の字が海岸線に点在しているが、本土復帰後の国際博覧会を機に、珊瑚礁のある海岸線上に観光・リゾート開発が進んだため、国際化が急激に進んでいる。

特に、平成24年に開学した沖縄科学技術大学院大学(OIST)により、国際的な学びの村として注目され、学校教育現場も国際化となっており、英語教育を推進しているところである。

村内の人口の減少はほとんどないが、緩やかな少子高齢化となりつつある。戦後、駐留していたアメリカの教育方針の影響により、学校施設が小中学校が同敷地内にあり、また、幼稚園がその小中学校に隣接している状況であるため、幼・小・中の連携教育が行いやすい環境ができていた。

しかし、いずれも小規模中学校のため課題が多く、特に、学力の向上については、喫緊の課題となっていた。また同時に、中学校についてはより教育の環境を整える必要であるため、中学校の統合を進めることになった。

○「幼小中の連携教育について」

稲福主任指導主事、 仲宗根指導主事

幼小中の連携教育は、学校施設の立地上、同敷地内にあるので、やりやすい環境にあり、幼稚園から子どもの成長を見守っている。

村の国際化の現状もあり、英語教育は、ALT(外国人による英語指導=ネイティブ講師)からJTE(日本人による英語指導=日本人講師)に移行している。小学5、6年生の学級担任はJTEとなっている。

ただし、まだ日本の生活になじめていない、全く日本語ができない子どもは、OISTに協力をお願いし、国際学級を開設している。

小規模校であるために、中学校においては1教科1名の教職員しか配置できず、小学校においては1学年1名の教職員の配置となっている。1人で教科、学年を持つことになるために教職員が負担を感じている。

個々の学校、個々の教職員で様々な課題を解決することは困難であるため、村全体で教科別、学年別の教職員の会議や研修を行い、複数の教職員が様々な課題にかかわり解決できるようにしている。

ICTについては、教育環境の整備という点から、電子黒板、パソコン室等の設備を整え、タブレットの配布等を行い、わかりやすい授業に努めている。

○「中学校規模適正推進事業について」

喜久山中学校統合推進室長

小規模中学校では、学力達成度にあわせた授業、生徒会活動、部活動、特に、団体球技の部活、野球やサッカー等ができないといった問題があったが、学校の規模を大きくすることで、問題を解決できるとして「中学校統合推進室」を設置した。

学力向上等、子どもたちに対する前村長の思いが村民に繋がり、「中学校規模適正推進事業」は順調に進めることができた。

村内の中学生がみんな同じ学校に通うことで、同じ教育環境で学習することで豊かな人間性や社会性を個々の成長を促すことができ、また、教科、経験等バランスのとれた

	<p>教職員配置を行うことで、学力の底上げを図ることができ、成長期の子どもたちへの指導等協力体制が整うことになる。また、村全体で保護者のつながりができ、強い連携が生まれることにもなる。村としても1つの中学校になることで、集中した予算配分ができることになる。</p> <p>統合後の中学校をどこにするか、村の特異的な地形の問題もあり場所の選定に苦慮したが、選定後は、統合推進協議会の各部会において積極的な協議が行われ、学校名、校歌、制服、PTA規則、スクールバスの運行等、村全体で新中学校の設立に関わってもらっている。</p> <p>○笠岡市教育委員会 岡田教育長 あいさつ</p> <p>○笠岡市議会 大本副委員長 あいさつ</p> <p>○うんな中学校建設現場視察</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

## 【2】名護市議会

住 所	沖縄県名護市港1丁目1番1号
電 話	0980-53-1212 (内305)
視察案件	<p>小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」の学校経営と小中一貫教育の成果について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋我地ひるぎ学園開校後の教職現場の状況について</li> <li>・保護者・地域と学校との連携について</li> <li>・学校での子どもたちの反応について</li> <li>・小中一貫教育を推進するための課題と解決への取組について</li> </ul>
期 日	令和元年5月21日(火) 9時45分～11時50分
応 対 者	<p>大城秀樹 議長、 上地 健 議会事務局長、 神谷智子 庶務係長          仲宗根勝也 学校教育課長、 渡具知久浩 校長、 平安山功 教頭(小学校)、          松田 健 教頭(中学校)、 比嘉一墨 主事、 千葉晶子 主事、          遠矢朋子さん(保護者代表)</p>
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	<p>名護市立小中一貫教育校 屋我地ひるぎ学園          (沖縄県名護市字饒平159番地 Tel. 0980-52-8162)</p>
概 要	<p>○中学校校舎見学(上地事務局長説明)</p> <p>「屋我地ひるぎ学園」は小中一貫教育校として平成28年度に開校され、現在は7年生から9年生までが従来の中学校で授業を受けている。将来的には新築されている1年生から6年生までの校舎に並行して建設される新校舎で授業を受ける予定である。</p> <p>また、旧小学校グラウンドに新しい体育館が建設されているが、隣接しているパイナップル畑を収用し、グラウンドを広げる予定ときいている。</p> <p>○名護市概要(上地事務局長説明)</p> <p>○屋我地ひるぎ学園 渡久地校長 あいさつ</p> <p>○学校紹介(DVD)</p>

小中一貫教育校2校で小規模特認校児童生徒募集を市内から行っており、特色ある教育活動「美ら海タイム」等を紹介するとともに、「屋我地ひるぎ学園」の学校概要、沿革、教育目標、教育方針をDVDでわかりやすく説明。

特に、1年生から9年生までが行う「美ら海タイム」は、アジサシ調査（渡り鳥）、ミツバチ体験（養蜂）、豆腐づくり、塩田体験、カヌー体験など、美ら海に囲まれた屋我地の特性を十分に生かした特色ある教育活動であり、地域の支援を得て子どもたちがのびのび育つ魅力あるものであり、注目されている。

○学校経営と小中一貫教育の成果について

仲宗根学校教育課長

渡久地校長は4月より赴任。赴任前は同じ小中一貫教育校「緑風学園」で、小中一貫教育校として十分な経験を持っている。「緑風学園」は、「屋我地ひるぎ学園」よりも4年早く開校された。

小規模特認校児童生徒募集を市内から行っているが、校区外からの転入学は、基本1年生入学時のみとしている。1学年30人（1学級）定員のため、屋我地の子どもの在籍数を除く人数を募集しており、毎年数名の子どもが校区外から入学している。

基本的に通学は保護者の送迎となっている。

教職員全員が同じ9年間の一貫した教育目標を持つことで、教職員が一体となって子どもたちに関わることができる。学習指導や生徒指導を発達段階に応じたきめ細かい指導を行い、系統的、継続的な教育課程の編成を行っている。

目指す子ども像、目指す学校像、目指す学校像を9年間で4・3・2の前期・中期・後期の各ブロックに分けて行っているが、基礎から問題を見つけることができ、9年間の長いスパンで指導することができる。

実際、小中一貫教育により、小学校（国語・算数）・中学校（国語・数学・英語）すべてにおいて学力は大きく向上している。

特色ある教育活動、1年生からの英語授業をはじめ、異年齢交流やキャリア教育の充実により「生き抜く力」を育てている。

○授業参観 1～6年生までの授業及び校舎内を参観

○保護者代表 遠矢朋子氏

「屋我地ひるぎ学園」が小中一貫教育校として開校される前から保護者（PTA）として関わっていた。開校後も、コミュニティ・スクール学校運営協議会のメンバーとして引き続き関わっている。

小中一貫教育校となったものの、同じ敷地内に新築校舎が建設され、新しい施設で学ぶことになるが、基本的には変わるところがないため、制服を新調することにした。

6年生までは自由服であるが、旧中学校の制服（セーラー服等）を変更し、初めて「かりゆし」を取り入れた制服にした。本来の「かりゆし」での製作は高額となるため、保護者の手作りによる屋我地オリジナルの「かりゆし」を製作し、その一部使用した制服を生徒が着用することで、生徒だけでなく、保護者の小中一貫教育校への意識を高めることができた。

添付書類

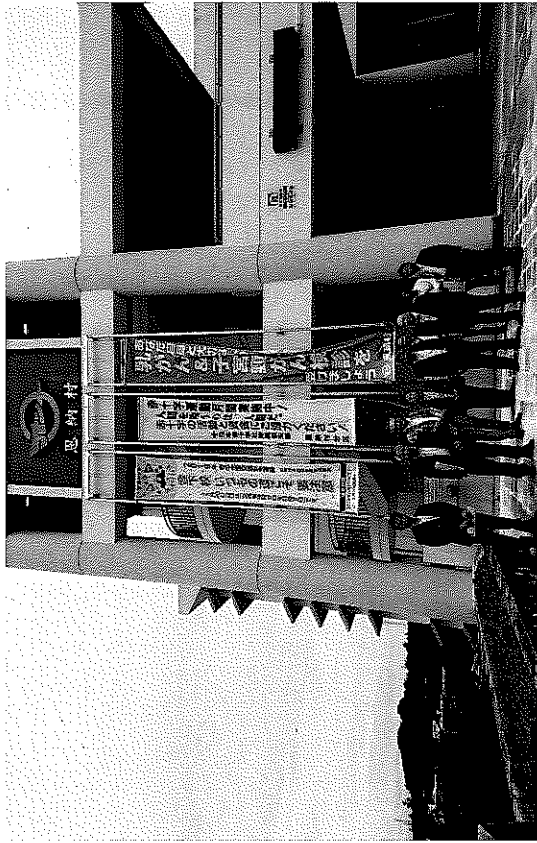
視察資料 視察状況写真 名刺

【3】那覇市議会

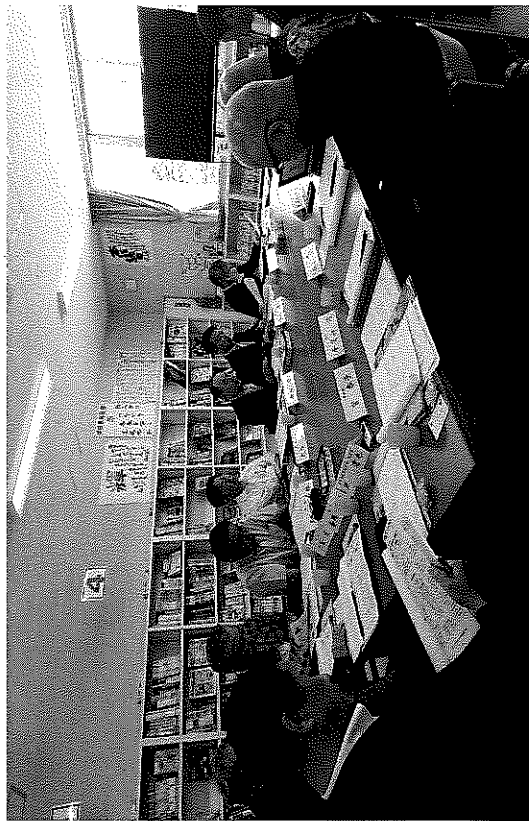
住 所	沖縄県那覇市泉崎1丁目1番1号
電 話	098-862-8194
視察案件	協働のまちづくりの推進について <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりにおける那覇市協働大使の活動とその効果について</li> <li>・なは市民協働大学によるまちづくりコーディネーターの育成について</li> <li>・自治会・校区まちづくり協議会と地域防災について</li> </ul>
期 日	令和元年5月22日(水) 13時30分～14時55分
応 対 者	又吉 弘 まちづくり協働推進課長, 渡嘉敷洋美 市民活動センター長, 宮里主事
視察状況	別紙写真のとおり
訪問施設	なは市民活動プラザ ( 沖縄県那覇市銘苅2丁目3番1号 TEL 098-861-5024 )
概 要	<p>○又吉課長より那覇市の概要説明</p> <p>沖縄県全体に言えることであるが、那覇市は自治会、町内会といった加入率（地域カバー率）が低い。理由として、戦争により土地を取られ、なじみのない地域で生活している状況があり、地域への帰属意識は低いと思われる。</p> <p>そのため、まちづくり活動をするうえで、市民が地区の何かの活動に所属し、自助、共助が行える組織作りをすることが必要である。なは市民活動プラザが市内のまちづくりの拠点になるよう場所、情報の提供を行っている。</p> <p>○渡嘉敷洋美市民活動センター長より館内の案内、説明</p> <p>なは市民活動プラザは旧銘苅庁舎を改修して、市民活動の拠点となっている。市民の「市民活動の拠点」の認識度が低く、何のための建物か理解してもらっていない現状があり、市として課題である。</p> <p>市民に対して、協働のまちづくりの意識、自助、近助、共助、公助の考え方を浸透していく取組は必要であり、一人でも参加しやすいまちづくり活動を目指している。</p> <p>プラザ内には、NPO法人等、市民団体が活動を行うための拠点になるスペース、ブースを提供しており、各団体の情報交換が行われ、点と点が、点と線、線と線、面として活動が広がる拠点作りを行っている。</p> <p>○宮里主事より「ひと つなぐ まち ～協働によるまちづくり～」の説明</p> <p>市民の自治会カバー率（加入率）が低いため、基本となるまちづくりを小学校単位での校区まちづくり協議会で行う取組を推進している。校区まちづくり協議会では、緩い縛りの中で活動できるようにしており、地縁団体（自治会、老人会、婦人会等）、学校関係団体（PTA、子供会等）、行政等の関係団体（民生委員、健康推進員、交通指導員等）、協働（協働大使、協働大学卒業生等）、事業所、企業、NPO団体、その他団体が校区まちづくり協議会を構成している。市民は校区まちづくり協議会の何かに所属することで協議会に参加してもらっている。</p> <p>しかし、市民に「まちづくり」の意識をもってもらう取組を推進しているが、実際、校区まちづくり協議会の設立までのハードルが高いのが現状である。</p>

	<p>市としては、地区で様々な活動を行っている団体や個人を通じて、まちづくりへの参画を促す人材づくりを行っている。特に、市が委嘱している協働大使や協働大学（院）の卒業生については、地区の核となって、他の地区の協働大使や卒業生と共に点と点を繋ぐ役割を果たしてもらっている。</p> <p>本土の地域と異なり、自治会（地縁団体）がしっかり根付いていないために、市民全体を把握することが実際難しい。今は、人の点と点、線と線、面と面のつながりを大切にして、まちづくり活動を支援している。防災、防犯にかかる活動等を通じて、助け合い、認め合う、安全安心のまちづくりを行い、地域の課題解決に向き合う体制づくりを目指している。</p>
添付書類	視察資料 視察状況写真 名刺

恩納村役場



名護市（名護市立小中一貫教育校屋我地ひるぎ学園）





那覇市（なは市民活動プラザ）

